



日本写真学会・写真感光材料工業会共催

# 2021年度 PHOTONEXT 技術アカデミー

日本唯一最大スケールのプロと写真ビジネスのための展示会&セミナー『PHOTONEXT 2021』がパシフィコ横浜で開催されます。日本写真学会と写真感光材料工業会は、今年度も「最新カメラシステムの技術動向」「市場環境変化と機材状況 2021」についての技術アカデミーを企画しました。フォトビジネスに携わる皆様、企業・学術関係者、写真愛好家など幅広い皆様のご参加をお待ちいたしております。

**主催：(一社)日本写真学会、写真感光材料工業会**

**後援：株式会社プロメディア**

**協力：(公社)日本写真協会、(一社)日本写真文化協会、(協)日本写真館協会、(一社)日本写真映像用品工業会  
日本フォトイメージング協会**

**日時：2021年6月15日(火) 10:00~17:00(受付開始:9:30)**

**会場：パシフィコ横浜 展示ホール 2F 会議室 E204**

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1 TEL 045-221-2166(交通案内) / 045-221-2155(総合案内)

**交通：みなとみらい線：みなとみらい駅下車 徒歩約5分 JR・市営地下鉄：桜木町駅下車 徒歩約12分**

**参加費：全セッション通し：7,000円、セッションⅠ：3,000円、セッションⅡ：4,000円**

(要旨集含む) \*参加費は当日会場でお支払いください

**定員：30人**

**申込方法：Web上のフォームからお申し込み下さい**

URL：<https://www.spj.j.jp/> E-mail：[info@spj.j.jp](mailto:info@spj.j.jp) FAX：03-3299-5887

**申込締切：2021年6月10日(木) \*定員になり次第締め切らせて頂きます**

## 【講演プログラム】

### 【セッションⅠ：最新カメラシステムの技術動向】

10:00~10:45

#### EOS R5/R6 のデュアルピクセル CMOS AF II 開発

**キヤノン株式会社 イメージコミュニケーション事業本部 ICB 統括第一開発センター  
福田 浩一**

キヤノンは、EOS Rシリーズの新世代のAFシステムとして、デュアルピクセル CMOS AF II を開発し、EOS R5(2020年7月発売)とEOS R6(2020年8月発売)に搭載しました。デュアルピクセル CMOS AF II では、キヤノン独自のデュアルピクセル CMOS AF を100%撮影エリアに拡大し、センサーとエンジンを高速化させ、ディープラーニングに基づく動物や鳥の瞳などの被写体認識(EOS iTR AF X)技術と融合することで、難易度の高い撮影シーンでの高速に動く被写体への優れたAF追従性を実現しました。本講演では、このデュアルピクセル CMOS AF II 技術について紹介します。

10:55~11:40

#### ミラーレスデジタルカメラ「FUJIFILM GFX100S」の開発

**富士フイルム株式会社 イメージングソリューション事業部  
イメージングソリューション開発センター  
田中 康一**

富士フイルムは、ミラーレスデジタルカメラ「FUJIFILM GFX100S」(以下 GFX100S)を2021年2月に発売しました。「GFX100S」は、35mm判の約1.7倍と大型で、1億2千万画素のイメージセンサーを搭載し、その性能を最大限に生かすフジノン GF レンズ、独自の色再現技術により圧倒的な高画質を実現しています。また、軽量・コンパクトなボディに、高性能な手ブレ補正機構と高速・高精度な像面位相差 AF 機能を搭載。大型センサー搭載デジタルカメラの常識を覆す機動力を発揮し、撮影シーンを大きく広げました。本講演では「GFX100S」を支える機能や技術と、デジタルアーカイブ分野への用途拡大を目的として開発・搭載した約4億画素の高精細画像を生成する「ピクセルシフトマルチショット機能」について紹介します。

11:50~12:35

#### 焦点距離 2000mm 相当での手持ち撮影を可能にする超望遠 PRO レンズの開発

—M.ZUIKO DIGITAL ED 150-400mm F4.5 TC1.25x IS PRO の開発—

**OMデジタルソリューションズ(株) R&D Product Development  
村山 恭二**

OMデジタルソリューションズは、フォーサーズフォーマットの強みを活かし、小型軽量・高画質の超望遠ズームレンズ「M.ZUIKO DIGITAL ED 150-400mm F4.5 TC1.25x IS PRO」を2021年1月に発売した。本製品は、2倍テレコンバーター(MC-20)と組み合わせることで、最大2000mm相当(35mm判換算焦点距離)の超望遠撮影が可能となり、さらに、最新の軽量化技術、圧倒的な手ブレ補正性能により、手持ちでの超望遠撮影を可能とさせている。また、超望遠レンズでありながら、MC-20を装着すると撮影最大倍率1.42倍相当と、マクロレンズ以上の撮影が可能である。超望遠レンズの常識を覆し、超望遠からマクロまで圧倒的な撮影領域を実現、写真の表現の幅を大きく向上させることに貢献できたと考える。

## 【セッションII：市場環境変化と機材状況 2021】

13:30～14:15

### 写真戦線異常あり

日本カメラ財団 日本カメラ博物館  
市川 泰憲

2019年に発生した新型コロナウイルス感染症は、写真界においてはCP+2000、フォトキナ、PHOTONEXT、パリフォトなど国内外イベントの中止が余儀なくされ、加えて内包していた問題が噴き出したように50年以上続いたフォトキナの永久的中止やアサヒカメラの休刊が発表された。一方、日常生活では外出が規制されたが、家庭内や身近な所での撮影が見直されるなど新しい視点が生まれてきた。そのような中で写真制作する手段の中核となるデジタルカメラは、確実な進歩を遂げてきており、レンズ交換式のカメラとしては一眼レフからミラーレス一眼へと着実に進化し、いまや第2世代第3世代目となった。これら各社カメラの最新技術を見ると同時に、残された課題に対して問題点を考えてみる。

14:25～15:10

### ドローン空撮の現場、その現況と近い将来

写真家  
茂手木 秀行

空撮のみならず、様々な分野でドローンの利活用が進んでいる。しかし、その一方で事故もふえ、来年にはドローン操縦の免許化も始まろうとしている。また、安全保障の観点から使用できない機材や飛行方法などもあり、気軽にドローン空撮を行えないのが現況である。そこで、実際の撮影に即した作業の流れと、免許化に向けた今後の展望を解説する。

15:20～16:05

### 最近の写真館における、メニューと表現の変化。それに伴う機材、ライティングの動向

日本写真文化協会 会長、(有)日の出写真商会 代表取締役  
田中 秀幸

写真館を取り巻く状況の変化、ならびにニーズの多様化。これまでの行事中心、型物重視の営業写真から、個人の表現、家族の記録、スタジオ、アウトドア等撮影環境の変化、そしてスクールフォトにおける表現の拡大。実際の写真をご覧いただきながら、どのように機材の進化が反映され、これまでと違う光の取扱いや処理がなされているか、具体的にご説明できればと思います。

16:15～17:00

### 被写体別の機材の選択 2021

写真家  
相原 正明

2021年も被写体に合わせた機材の選択を講演いたします。今回は多様化するデジタル機材とデジタルの時代だからこそ見直される写真の原点モノクロームを重点にデジタル&フィルム併せてご説明いたします。その中での機材の使い方と作品をご覧いただきます。

- 1) Nikon D5 + Nikkor レンズ : 夜鉄 超高感度の世界
- 2) FUJIFILM GFX100S + FUJINON レンズ : 被写体とレンズの間に存在するサムシングエールズを撮る
- 3) 富士フイルム ACROS II + PENTAX645 & Nikon F6 : デジタルでは成しえない芯のある柔らかさ
- 4) LUMIX S シリーズ + LUMIX SIGMA Otus : モノクローム+ハイレゾ撮影、日常の中の宇宙を撮る
- 5) FUJIFILM X-Pro3 + FUJINON : 町の雰囲気に溶け込み撮影する最強のスナップシューター

\* テーマ及び講師については、予告なく変更する場合がございます

#### 【問合せ先】

〒164-8678 東京都中野区本町 2-9-5 東京工芸大学内 日本写真学会事務局

E-mail: [info@spij.jp](mailto:info@spij.jp) Tel: 03-3373-0724 Fax: 03-3299-5887

〒106-0031 東京都港区西麻布 2-26-30 富士フイルム西麻布ビル1号館 写真感光材料工業会

E-mail: [kanzai.aoki@mbr.nifty.com](mailto:kanzai.aoki@mbr.nifty.com) Tel 03-6419-7241 Fax 03-6419-7264